

ヴィアマテラス宮崎と宮崎大学との地域連携の取り組み 一流木で掲げる応援フラッグ制作ワークショップの開催

○丹生晃隆, 加来亜弥¹, 内間安路²

1. はじめに

宮崎大学の丹生研究室では、宮崎県児湯郡新富町をホームタウンとし、なでしこリーグ1部に所属する女子サッカークラブ“ヴィアマテラス宮崎”と連携したプロジェクトに取り組んでいる。丹生研究室では、2019年度から6カ年に渡って、サッカーJ3リーグに所属するテゲバジャーロ宮崎と連携したプロジェクトを行っていたが、こちらはクロージングとし、2025年度からは“地域密着”をより志向するヴィアマテラス宮崎とともに地域連携プロジェクトに取り組むことになった。

2. プロジェクトの企画にあたって

2025年4月に学生とともに初回の打ち合わせを行い、まずはヴィアマテラス宮崎のこれまでの活動内容や地域連携に関わる取り組みについて情報収集を行った。その後、5月のホームゲームの観戦を行い、6月にはホームゲームの試合運営ボランティアとして実際の活動に関わった。プロジェクトの企画内容の検討にあたっては、これまでの学びを活かす実践活動として、経営学のフレームワークを用いた分析を行った。具体的には、市場・顧客 (Customer)、競合 (Competitor)、自社 (Company)、協力者 (Co-operator) の4者の視点から現状分析を行う4C分析、政治 (Politics)、経済 (Economy)、社会 (Social)、技術 (Technology) の視点から外部環境の分析を行うPEST分析、これらの2つの分析結果を組み合わせる形でSWOT分析を行った。SWOT分析の結果から、クラブの強みとしての“地域密着”や“地域住民との繋がり”、“環境配慮やエコ意識の高まり”を機会として捉えて、プロジェクトの企画を行うことになった。

3. 流木で掲げる応援フラッグ制作ワークショップ

7月から8月にかけて、学生の発案によるいくつかの企画の検討を行った結果、浜辺に打ち上げられた“流木”を一つの地域資源と捉え、2本の流木を支柱とした応援フラッグを制作するワークショップを開催することに決定した。プロジェクトの目的として、ファン・サポーターのクラブに対する愛着を高めること、地域資源の再発見を狙いとした。当初想定していた環境配慮やエコ意識を前面に出すことは弱め、ワークショップを通じて、環境保護を考える一つのきっかけとなることと位置付けた。8月末には、ウミガメの産卵地でもある富田浜海岸にて、ヴィアマテラス宮崎の選手と学生で流木の採集を行い、プロジェクトのストーリーづくりを行った。制作された応援フラッグを、2025年シーズン内の他のホームゲームで活用してもらうことも想定し、10月12日の最終戦の前の9月21日をワークショップの開催日とした¹⁾。告知はクラブのSNSを通じて行い、事前申込制とせず、当日受付とした。

4. まとめ

ワークショップ開催日は、15:00の試合開始の3時間前から設営を行い、最終的には39名の参加者がフラッグの制作に取り組んだ²⁾。当日の試合の勝利に対して、応援という形態で何らかの一助にもなったのではないかと考えている。発表時には、プロジェクトの反省点を含めたふりかえりを行うとともに、スポーツクラブと大学による連携活動の意義についても考察したい。

【参考文献等】

備考: Web ページへのアクセス日は2025年11月17日

1) 宮崎大学プレスリリース (2025年9月17日) ヴィアマテラス宮崎と宮崎大学との連携企画イベント「流木で掲げるヴィアマテラス宮崎応援フラッグ制作ワークショップ」の開催について

https://www.miyazaki-u.ac.jp/public-relations/20250917_01_press.pdf

2) 「宮大ゼミ、ヴィアマ初コラボ 選手と流木集め応援旗に」、宮崎日日新聞記事、2025年9月25日

¹ 宮崎大学 地域資源創成学部 企業マネジメントコース

² 特定非営利活動法人 Connecting Sports 宮崎



ワークショップ当日の案内・配布資料